

じんけん くらしの扉

淡路市人教：No.52

人権と向き合って

淡路市人権教育研究協議会

岩屋支部長 栗山 靖

今まで、人権について自分の中でも、あまり関係のないところにスタンスをおいて生きてきました。同和問題、いじめ、ひきこもり等、関わると問題山積みで、事の重大さと他人事でいたことを痛感させられました。自分に何ができるか、何を分かっているかと言われると、まだまだ他人事で恥ずかしい限りです。差別などあまり身近な問題に感じていませんでした。もちろん、大きな問題です。支部長という立場になって自分がいろいろ関わる事で、私のように関わりがなかった方に一人でも多く関わってもらいたいのですが、自分事として考える方が私のまわりに少なすぎると感じています。

人の和、助け合いが非常に大切な時代になりました。小さなコミュニティから大きなものまで、人と人との触れ合いや情報の共有などで、地域を守っていかなければなりません。年齢とともにそういう立場に自分が置かれてきていることに、責任を感じます。地域のリーダーとして、これからもいろんな問題に取り組みながら、町づくりにも力を入れて、みんながいいき暮らしを盛り上げていきたい。自分一人では何もできませんが、皆さんに助けていただきながら、人生もうひと活躍しようと思います。

「2018 じんけん市民講座」

たつの市フィールドワーク



7月31日(火)、「じんけん市民講座②たのしく学ぶフィールドワークコース第1回たつの市フィールドワーク」が淡路市人権教育研究協議会北淡支部・一宮支部合同事業として実施されました。

たつの市の地場産業として育成されてきた皮革産業は、古くは鎌倉時代にまでさかのぼる伝統産業です。松原地区は皮革工場が集まっている工場群として、なめした革を加工業者に出荷しているということです。最近ではアメリカなど海外からの輸入が増えているため、ここ10年で工場数は半数に減っているとのことでした。

皮革工場群視察の後、たつの市総合隣保館において、たつの市役所の職員の皆さんや市民推進協議会の地区委員の方々と意見交換会を行いました。

たつの市は、合併して最初に議案として議決されたのが「人権尊重都市宣言」であり、人権問題に当初から取り組んでいます。全国的にも数少ない部落差別に対する条例「たつの市部落差別の解消の推進に関する条例」を設置しています。特に地区委員の方々のお話は、非常に重く感じられる、心に残るお話でした。

皆さんの語るお話に共通していたのは、地域と行政が話し合い、ともに考え、差別をなくすための努力を長年に渡って続けてきていることでした。その道のりの険しさと、いつ終わるとも

しれない長さを切々と語る地区委員の方々の言葉は重いものでしたが、そこには笑顔があり共に頑張ってきた者同士という一体感が見受けられました。

